関西生コン弾圧事件ニュース　NO.50　2021年１月11日

＜本号２ページ＞

●本号の内容　１　今年初めの公判などの日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p1
２　書評『武語る・大資本はなぜ私たちを恐れるのか』
鎌田慧さん（「新社会」連載コラム）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p2
佐高信さん（「日刊ゲンダイ」）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p2

新年おめでとうございます

旧年中は大変お世話になりました。遅ればせながら新年のご挨拶を申し上げます。

今年初めの主な日程をお知らせします。

４月には、昨年につづき「検証シンポジウム・関西生コン事件　第２弾」を東京と大阪で開催する予定です。（ただ、コロナ第三波の感染爆発の現状からみて延期の可能性もありますが。）

●刑事裁判

＜大阪地裁＞　・大阪ストライキ１次事件・・・・１月 27 日論告、２月 12 日弁論 12 日
・大阪ストライキ２次事件・・・・２月中旬、控訴趣意書提出予定
・武委員長事件（大阪ストライキ２次/フジタ/タイヨーの３事件併合）
・・・・１月 19 日被告人質問

＜京都地裁＞　・加茂生コン第１事件・・・・・・・・３～４月控訴趣意書提出予定
・加茂第２・近畿生コン・ベストライナー併合事件・・・・春頃から公判見込み

＜大津地裁＞　・コンプライアンス事件第１グループ（現場組）・・・・３月８日弁護側冒頭陳述
・同第２グループ（ビラまき）・・・期日間整理

＜和歌山地裁＞・和歌山広域協組事件・・・・・・・・４月 22 日第 2 回公判

●労働委員会事件

・大阪広域協組主導の不当労働行為事件で申立 16 件。10 件で救済命令、２件で棄却決定。
現在、中労委再審査事件８件。→大阪広域協組の顧問弁護団トップ（元大阪地検刑事部長）らが中労委事件にのりだし、刑事弾圧事件の詳細な一覧をもとに「関生支部は反社会的色彩の強い集団」「違法な業務妨害行為、強要行為を繰り返してきた特異な集団」と決めつけ、日々雇用労働者の労働者供給契約に関する労働協約などは「違法行為により実現された利益であり法的保護に値しない」などとする論理で、初審が認定した不当労働行為を否定。中労委に揺さぶりをかけている。（これについては追って報告）

●その他解雇事件など多数の民事裁判

追って報告

検証シンポジウム第2弾「関西生コン事件を考える」

４月17日（土）13:00～17:00　東京・連合会館　大会議室

４月18日（日）13:00～17:00　大阪・ＰＬＰ会館

テーマ、パネリストなどの詳細は追ってご連絡します。

発行：全日建（全日本建設運輸連帯労働組合）　お問い合わせ０３－５８２０－０８６８

(改題)第1191号 (第3種郵便物認可) 週刊 新社会 2020年12月22日(火) (8)

沈思実行 (36)

鎌田 慧

生きるための闘争

舎人建関西生コン支部の武健一委員長の著書『大資本はなぜ私たちを恐れるのか』(旬報社)がユニークだ。

1942年、徳之島で生まれた武委員長が、労働運動に参加する経緯が興味深い。中卒のあと島で働いていた武さんの目の前に、大阪の生コン会社で働いている先輩が姿を現わした。ピカピカの革靴にスーツ、ネクタイ。眩しくて羨ましかった。19歳で島から大阪に出た。ピカピカ先輩のすすめだった。

生コン業界は「谷間の産業」といわれ、ゼネコンからは買いたたかれ、セメント会社からは高値のセメントを押し付けられ、労働者は低賃金・長時間労働だった。

一本気の武さんは職場の先輩の闘いに影響され、次第に活動家になり、やがて企業の枠を越えた、産業別労組を結成、委員長に就任。弱冠23歳だった。

解雇をされたが、復職闘争で職場に復帰。仲間がヤクザに殺され、彼自身も拉致され、拷問を受けた。建設、生コン業界とヤクザの関係は深い。

生コン経営者は労働者を使い捨て。経営者はメーカーから使い捨て。労働者の命と健康を護るために、中小零細の経営者の利益を守る。そのために、労使の懇談会の場をつくり、協同組合化、共同受注、共同販売を目指した。労組が経営者の組織化を提案するなど、画期的なことだった。

これらの運動に大企業が危機感をもつようになった。争議に入ったとき、背景資本攻撃などの戦術に敵視を強めていた。「労働者はなめられてはいけない。労働者あっての企業だ」とする武委員長の主張は、これからますます重要だ。

会社あっての社員。企業第一主義の思想に労働運動が囚われすぎた。関生の横断的な産業別運動が、これから未組織労働者を組織化し、路頭に迷うのを防ぐ。経営者が矛盾を労働者に転嫁して逃げるのを防ぐのが大事だ。

日刊ゲンダイ (5) 第3種郵便物認可 2021年(令和3年)1月11日

選者佐高信

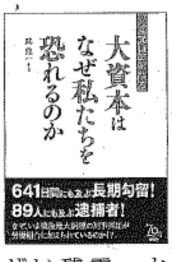
ビジネスマン必読 週刊オススメ本ミシュラン

現在、日本の企業の内部留保は475兆円もある。竹中平蔵らが唱導する新自由主義によって企業の自由勝手度が強まると共に法人税の相次ぐ引き下げの結果である。しかし、何よりも労働組合の結集体である連合が、まったくと言っていいほど闘わなくなったためだろう。

ヤクザを使った無法極まりない組合弾圧

大資本はなぜ私たちを恐れるのか

武 建一著／旬報社



こうした状況下では、ごく当たり前の労組の運動が自立ってしまい、警察国家となった現政権の集中砲火を浴びることになる。

「朝日新聞」までがドンなどと呼ぶ関西生コン支部委員長の武建一は、裁判所もグルとなった権力から目の敵にされ、何と641日にも及ぶ長期勾留をされた。労働法学会所属の78人の学者が「組合活動に対する信じがたい刑事弾圧を見過ごすことはできない」という声明を出したほどである。しかし、日本経営者団体連盟、いわゆる日経連の講師は講演会等で「法律など守っていたら組合をつぶすことはできない。われわれのバックには警察がついている」と公言していた。

1995年の阪神・淡路大震災で鉄筋コンクリートが無残に折れたシーンを記憶している人も多いだろう。水を混ぜて薄くしたシャブコンが使われていたからだった。「安かろう、悪かろう」のそうしたコンクリートを使わないために、2010年6月27日、労働組合と生コン業者が一緒になって総決起集会を開いた。大阪市内のホテルに近畿一円から集まった参加者が2300人。全国生コン協同組合近畿地区本部の久貝博司がこう挨拶した。

「ゼネコンによって生コンの価格が果てしなく下げられるなか、過当競争の行き着く先は原価割れだ。もはや自助努力ではどうにもならなくなった」

そして、「労使が心をひとつにして」出荷拒否のストライキに突入する。

これがゼネコンやセメントメーカーという大資本を震撼させ、武たちに対する無法極まりない弾圧が始まった。

彼らはヤクザを雇い、ヤクザによって武は拉致されたこともある。ガムテープでぐるぐる巻きにされ、車のトランクに放り込まれた。その時、武は「鳴海のようにしてやる」と言われたという。鳴海とは山口組組長の田岡一雄を銃撃して逆に報復のため殺された鳴海清のことである。この時は実行犯の組の幹部が武と同じ徳之島の出身だったため、奇跡的に助かった。いずれにせよ、いま、異常が普通になってしまっている。★★★